

## 2020年9月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500hPa 高度をみると、北半球の中緯度帯では波列パターンが卓越し、ロシア西部～地中海東部付近、千島列島付近、米国西部で正偏差、中央アジア、黄海付近で負偏差となった。200hPa 風速をみると、偏西風は北半球の広い範囲で蛇行が明瞭だった。ユーラシア大陸上の亜熱帯ジェット気流は、蛇行しつつ平年よりも強かった。海面気圧をみると、北米北部～グリーンランドの東で負偏差、北大西洋の北緯50度帯、中央・東シベリアで正偏差となった。850hPa 気温をみると、ユーラシア大陸北部の広い範囲で高温偏差が見られ、特に中央シベリアで顕著だった。また、地中海東部付近、北米西岸で高温偏差、中央アジアで低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋北部～インドネシア付近で活発、フィリピン付近～太平洋赤道域の日付変更線付近、中米周辺で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインド洋～インドネシア付近を東進し、その後は東進が不明瞭となった。対流圏上層では、日付変更線付近を除く太平洋熱帯域で南北半球対の低気圧性循環偏差、大西洋熱帯域～インド洋熱帯域で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、大西洋熱帯域～インド洋熱帯域の中部で南北半球対の低気圧性循環偏差、太平洋熱帯域で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域では、太平洋の中・

東部で正偏差、インド洋～太平洋西部、大西洋で負偏差となった。南方振動指数は+1.0だった。

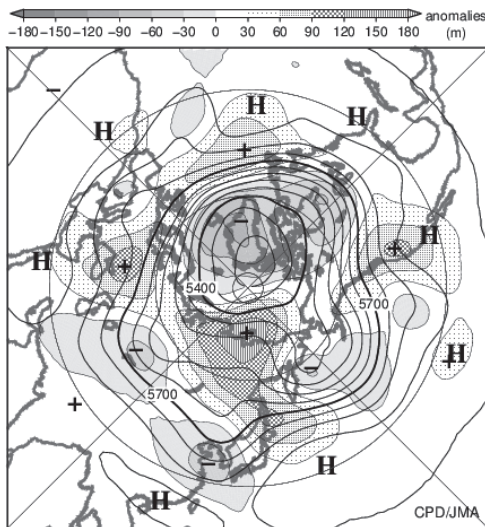
### 世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.44℃(速報値)で、1891年の統計開始以降、9月として3番目に高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.67℃/100年(速報値)である。

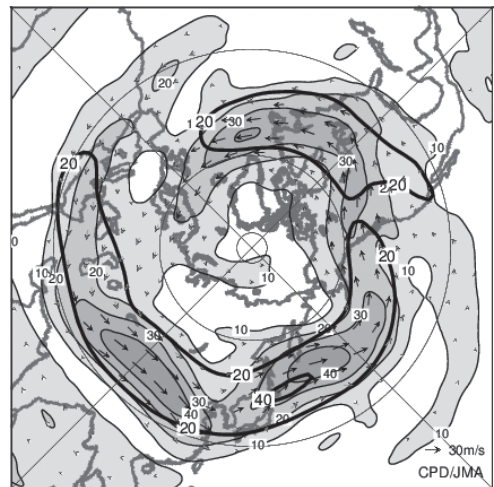
主な異常天候発地域は次のとおり。

- シベリア北部～東アジア東部、中国北部～南西部、東南アジア北部～南アジア西部、ヨーロッパ東部～中東中部、北アフリカ西部、カナダ南西部～メキシコ西部、中米中部及びその周辺、ブラジル及びその周辺、オーストラリアで異常高温、中央アジア南部及びその周辺で異常低温となった。
  - 中国北東部～朝鮮半島、中国南東部、西アフリカ中部～西部で異常多雨、米国北東部～北部、パラグアイ南東部～アルゼンチン北東部で異常少雨となった。
- (気象庁 大気海洋部 気候情報課)

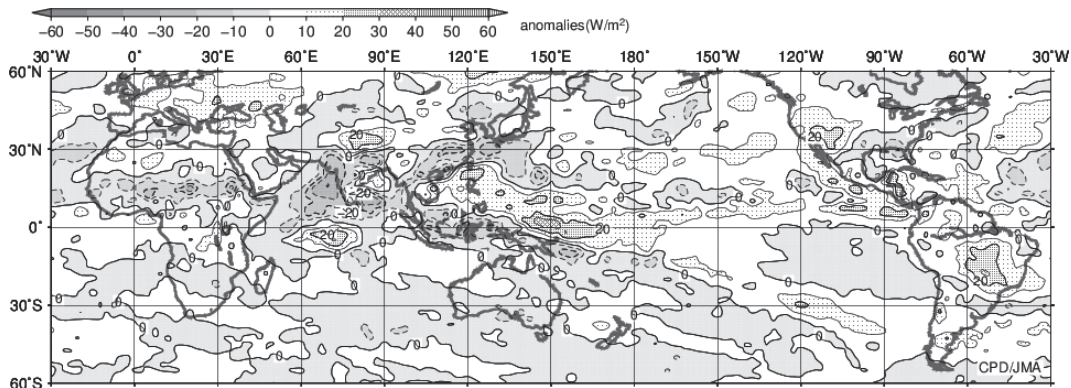
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。  
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2020年9月の北半球月平均500hPa 高度及び  
 平年偏差  
 等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は  
 1981～2010年の平均値。

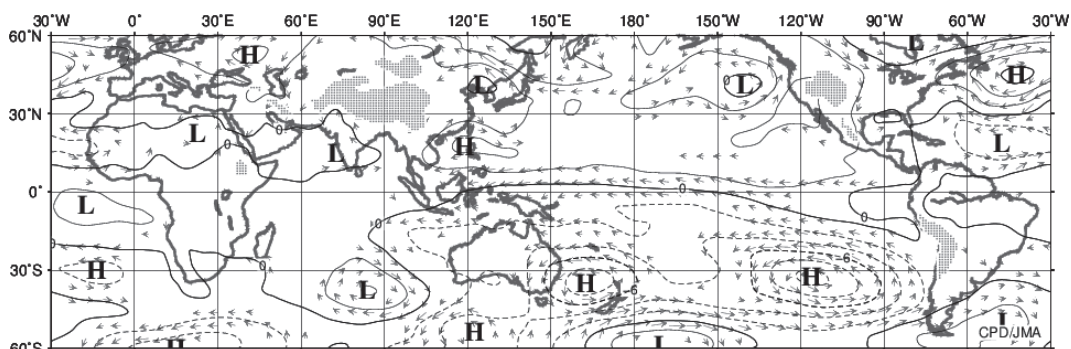


2020年9月の北半球月平均200hPa 風速及び  
 風ベクトル  
 等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値  
 線間隔は20m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



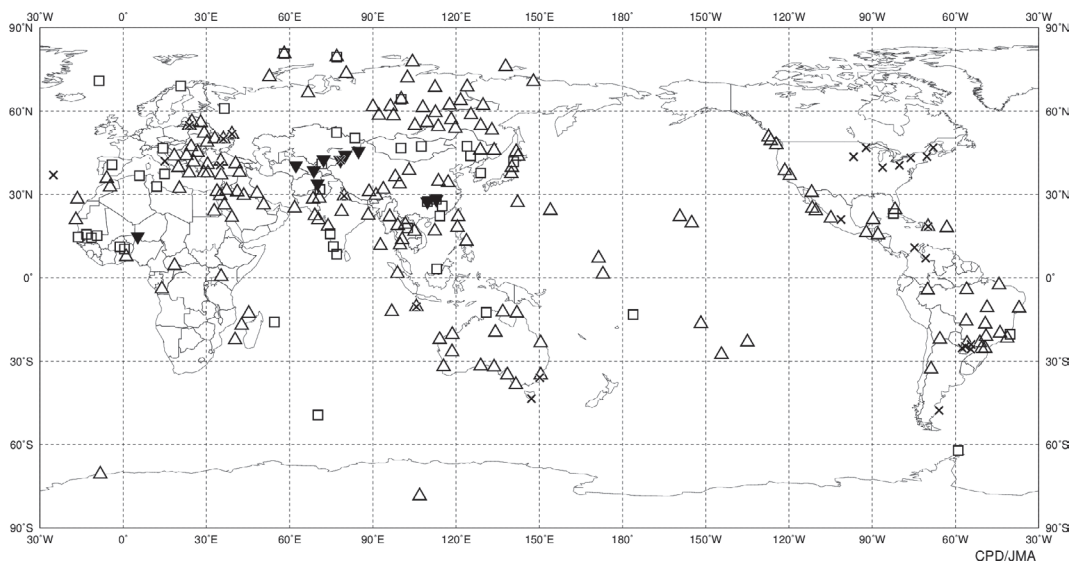
2020年9月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は $10\text{W/m}^2$ で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年9月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。